

【学習プログラムを開発しよう！】 (留意点等)

(A) グループ

1 課題

・災害に対しての危機感がない。
 ・地域へ参加するきっかけがつかめてない。(自分が参加しなくても誰も困らないという意識がある)
 ・行政の防災施設や啓発リーフレットの周知の仕方を工夫する。(地域の現状や自治会の活動などを知ってもらう)

2 プログラムのねらい

子どもを対象とした、防災教育を通して、地域住民が安全に避難できる地域を築く

3 プログラム全体の学習目標

・地域の担い手となる子どもに、正しい防災知識を学んでもらい、地域の防災リーダーとなってもらう
 ・家族や地域住民・地域企業との協働により防災学習に取り組み、互いに助け合える関係を気づいていく

4 プログラム名

「想定外」を生き抜くためのパワーを養え！地域を守る防災レンジャーへの道のり

5 対象・定員

K小学校4・5・6年生、とK学区住民。

6 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

なし。(保険は福山市総合安全保険を適用)

7 事前に必要な知識や準備物

アンケートの作成

8 留意点

毎回、パワーポイントを配布し、その個数によってレンジャーの階級を与える。
 修了者には、修了証書とレンジャーバッジを配布。
 実施前年度夏ごろに小学校へ提案をする。その後、何度か小学校と連携をとっておく。
 K学区に防犯組織を作る。

9 学習プログラムの展開

展開方法：（ ） 講義・演習型 (○) 参加型 () 参画型

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (○) 学習方法及び学習内容	学習支援者	学習場所
第1回 9月26日 (水)13:30 ～	地域博士に学べ！防災レンジャーになるための3つの秘訣！	<p>[講義]◎自分たちの街に、起こりうる災害を知り、災害に対する危機感を持つ。</p> <p>①地域の現状、起こりうる危険、危険を回避する方法をクイズを交えた講義形式で学ぶ（40分） ②第2回目に向けてマップを持っての地域探索（45分） ③まとめ（5分） 宿題：探索の感想、気づきをまとめてくる</p> <p>☆身を守るための必要な知識を身に着ける ☆手を差し伸べる勇氣 ☆人を思いやる優しい心</p> <p>・学区防災組織の役員に小学校校長等を入れ、学校との連携が取りやすい環境にしておく。 ・小学校教員、保護者、地域の人にも、聴講者として参加してもらう。 ・小学生対象なので、分かりやすく、興味をもってもらえる講義を依頼する。 ・探索は町内会ごとに分かれて行う。</p>	K小学校教員、地域ボランティア、F大学T教授、H大学総合地誌研究資料センター	K小学校体育館
第2回 10月10日 (水) 13:30～	地域の情報を収集し、避難経路を周知せよ！	<p>[ワークショップ・体験]◎自らが住む街で災害が起こった際の危険な箇所・助けがある人・避難場所・避難経路を知り、自助・共助の大切さを認識する。</p> <p>①第1回目の探索から感じたことを話し合う。（20分） ②地域には助けを必要とする人がいるということを知ってもらう。（15分） ③現在あるマップを分かりやすく作り直す。（45分）</p> <p>・グループは町内ごとに分ける。児童以外の参加者にも輪に入ってもらおう。 ・小学校教員、保護者、地域の人にも、聴講者として参加してもらう。 ・作ったマップの縮小版を各自持ち帰る</p>	危機管理防災課、霞学区民生委員会、町内会長、地域企業、その他地域住民	K小学校体育館

<p>第3回 11月 10日 (土) 9:00 ~</p>	<p>助けを求め るカスミン を救出せ よ!</p>	<p>[体験]◎体験を通して、自分の身は自分で守るという知識・技術を身につけ、連帯感を養う。</p> <p>①作成したマップをもとに会場となる小学校へ各自で避難訓練を実施する。 ②様々なブースを設け、疑似体験をする。 ③活用してみた気づきをもとに、マップを修正する。</p> <p>・事前にKキャラバンとの準備打ち合わせをしておく。 ・報道機関にも依頼をかける</p>	<p>ローズキャラバン、消防署、危機管理防災課、K学区防災組織、K小学校教職員</p>	<p>K小学校グ ラウンド</p>
<p>第4回 12月 1日 (土) 9: 00~</p>	<p>いざ！出動 せよ！</p>	<p>[まとめ・マップ配り・啓発活動]◎学んだことを再確認する。作成したマップを地域に配布し、情報を共有することで、今後の連携をはかっていく。</p> <p>①レンジャー就任式。バッチの配布。(30分) ②レンジャー出動準備をする。防災体操。(10分) ③完成したマップを担当町内全戸に、レンジャーが配布する。初出動！(60分) ④配布終了後振り返り。今後の活動に向けた話しあい。(30分) ⑤交流しながらみんなでトン汁を食べる。</p>	<p>K学区子ども会、K学区女性会、K学区ボランティア、F大学T教授</p>	<p>K学区内</p>

10 評価方法

<参加者へ>

レンジャーとしての今後の希望活動内容、プログラムの感想のアンケートをとる。

<地域住民へ>

マップをもらっての感想アンケートをとる。

両方公民館だよりに掲載し、地域全体に周知